令和8年度　学校教育目標『挑戦 笑顔ひろげる　丹那の子』
重点目標「夢中になる子　知りたい　なりたい　やってみたい」

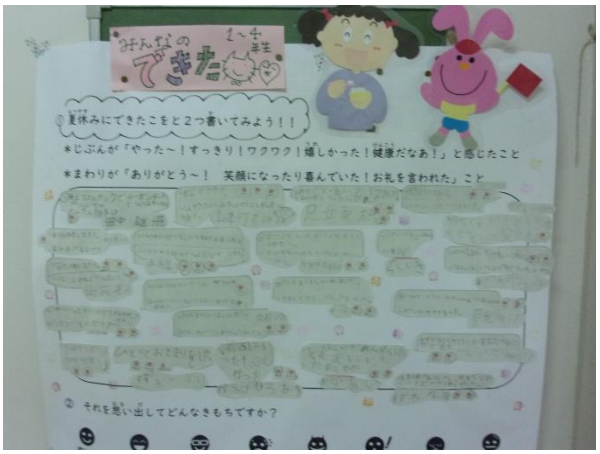
丹那小だより

函南町立丹那小学校
令和８年８･９月発行

「自分で考え　実行する」子に

校長　飯田　英晃

7 月 24 日から始まった 33 日間の夏休みもあっという間に終わり、8 月 26 日からまた、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。この間、保護者の皆様にはお子様の体調管理や安全・安心な生活にご協力いただき、ありがとうございました。夏休み前の朝会で、私から子どもたちに 2 つの約束をしました。それは「病気やケガをせず、元気に、安全に過ごすこと」と、「勉強、運動、読書や家のお手伝い…何でもいいから、自分で決めて挑戦すること」でした。学校を離れ、家庭での生活時間が長くなった夏休みでしたが、お子様はどのように過ごしたでしょうか？



みんなの「できた！」（夏休みにできたこと）

さて学校では、夏休み前に保護者の皆様、児童、教職員を対象に「学校評価アンケート」を実施しました。丹那小の子どもたちは、あいさつや言葉遣い、友だちとの関係など、周囲との関係性や集団生活については概ね良好な数値を示した一方で、「めあてをもって挑戦し続けている」という質問については、A「よくできている」よりも B「だいたいできている」と回答した児童が 46％と、他の項目よりもやや高い数値を示しました。また、「家庭学習に自分から取り組んでいる」という質問では A「よくできている」42％＋B「だいたいできている」37％＝79％と A+B の数値が唯一 80％を下回り、C「あまりできていない」と答えた児童も 19％と、最も多い結果となりました。

私が 4 月に丹那小に着任して以来、いろいろな機会に「自走できる子の育成」について、保護者の皆様や本校の教職員にお願いをしてきたところですが、今回の結果を見る限り、まだまだ「自分で考え、実行する＝自走できる」というところまでには至っていないのかな、というのが実感です。

早いもので、あと 1 か月もすると前期が終わり、1 年の半分が過ぎることになります。10 月から始まる後期には、２nd ミッション「CS オール丹那運動会」が控え、6 年生は修学旅行もあります。学校では、こうした行事や学校生活の様々な場面で子どもたちが自ら考え、実行する、自走できる子の育成に努めてまいります。失敗したことや、できなかったことに「×」を付けるのではなく、「どこがいけなかったのか、次にどうすればうまくいくか」を子どもたちと一緒に考え、寄り添っていきたいと思います。ご家庭でも、引き続き学校への御理解と御協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。